



世界の航空機産業を 秋田の技術で支える

株式会社三栄機械



世界を飛び回る航空機の製造になくてはならない企業として、秋田のものづくりの未来のために、航空機事業で存在感を示す!

確かな技術力で航空機事業へ

昭和46年創業の三栄機械。その名の通り、機械作りを通して地域と全世界のユーザーに貢献してきた会社だ。石材加工機の製作・販売から始まり、弱電・半導体関連設備や自動車部品の生産設備などを手掛け、成長を続けてきた。三栄機械の強みは、設計から製作、メンテナンスまでの業務を一貫して担えるところにある。

現在、三栄機械の中心的な事業となっているのは、航空機関連設備の設計と製作だ。航空機産業での厳しい品質基準をクリアするため、2000年にISO 9001を、2008年にはJIS Q 9100を東北地域の企業としていち早く取得し、近年受注を拡大している。

製品の一例として挙げられるのは、ボーイング777/787のような大型旅客機の製造ラインの設備や整備の際の足場となる作業台などだ。部品の姿勢を支持するにあたって荷重が過度に集中してはいないか、作業者の安全や作業性は確保されているかなど、設計図面だけでは見えてこない人の動き方、部品や機械の動き方を営業とエンジニアとが丸となって想像し、形にしていく。

困難を極めたのは、航空機の胴体に組み付ける前の主翼を運ぶためのコンテナの製作だ。全長30mにも及ぶ主翼を覆い、固定し、一切の破損や変形を負わせることなく、日本から米



A 航空機の中央翼を製造する際に姿勢を支持するための設備を製造
B 様々な生産設備がここで設計され、世界の航空機製造を支える

国へ空輸するミッション。この巨大なスケールの製品を三栄機械の技術者たちは、自分たちの頭の中で想像を膨らませ、設計し、具現化した。あまりの大きさのため、本社工場と象潟工場で分担して製造したコンテナが国際空港で1つとなり、顧客の製品を内に納め、空に飛び立っていく。このプロジェクトをやり遂げた技術者たちの胸には大空を埋め尽くすほどの達成感が満ちていた。

昨年度、航空機部品製造大手の山本精機が潟上市に進出し、新工場を建設した。県が誘致成功に至った一因には、国内外の航空機産業で確かな実績を挙げていた同社の存在がある。

原動力は現場の技術者たちの熱意

躍進を続ける三栄機械の原動力となっているのは、現場の技術者たちだ。航空機産業という世界基準の業界へと参入し、高い要求に応えるのは並大抵のことではない。しかし、「新しい仕事を持ってくると、現場が自然と『よーし、やってやるぞ!』という雰囲気になる」と佐藤専務。自分たちの仕事に対する特別な思いが、モチベーションになっているという。昨年6月にはボーイング社が三栄機械を訪問。「秋田にいながら世界と繋がる仕事をしている」ということを全社員が再確認した。秋田県の航空機産業を牽引する、三栄機械。未来への挑戦は、まだまだ続いていく。



代表取締役専務

佐藤 淳

Jun Sato

株式会社三栄機械

〒015-0051 秋田県由利本荘市川口
字家妻146-3
TEL.0184-23-1094
FAX.0184-23-1538
E-mail info@sanei-kikai.co.jp
URL http://sanei-kikai.co.jp

【会社概要】

航空機関連の設備・器材の設計・製作、各種生産設備の設計・製作、鋼構造物の設計・製作、プラント工事・メンテナンス、各種精密自動機器の設計・製作などを行う。大規模な構造物から精密機械まで、多種多様な業界のクライアントからのオファーを受け蓄積された、高い製作技術と専門性に定評がある。
創設年:1971年

